

協議会ニュース 105号

愛知県自然観察指導員連絡協議会 2006. 3



伊川津湿地のシデコブシ

故・恒川敏夫先生は 1984 年の著書で、渥美半島内に 17 箇所のシデコブシ自生地があると記録している。かつての教え子達のおかげでこのほとんどの湿地を訪れることができた。恒川先生の記録にない湿地も生徒から教わった。

伊川津湿地は渥美山塊の中程にある。そこにはかつて、数百本のシデコブシが自生する湿地があったと故・小柳津弘先生から聞いている。

・支部だより

名古屋支部総会報告

尾張支部総会報告

・意見交流会「フェ/ロジー」報告

・研究会「学校における環境教育」

・新加入員紹介

・自然観察会～

・「豊かな自然セレクション 100」

・理事会・事務局だより

・行事案内 他

滝田久彦P2

辻愛子P2

山田博一P3

佐藤国彦P4

.....P7

近藤記巳子P9

永田孝P10

.....P11

.....P12

名古屋支部総会報告

平成18年度の名古屋支部の総会が1月21日(土)午後2時から名古屋市教育館2階の第8研修室で開催されました。当日の参加者は15名でした。萩原さんの議長のもと、平成17年度の事業報告と会計の収支報告がなされ承認されました。平成17年度に行った新たな事業としては“なごや環境大学”の共育講座として実施した“親子ふれあい自然塾”と、子どもゆめ基金の助成を得て、岐阜県下呂市金山町の岩屋ダムとその周辺で実施した環境学習活動などがあります。また、平成18年度の事業計画とその予算書が提案され承認されました。今年度、新たに行う事業としては、最近問題となっているカシノナガキクイムシの被害調査などがあります。また、今年も“なごや環境大学”で共育講座を企画していますが、“ため池の自然研究会”と協力して行う予定になっています。また、今回の総会では名古屋自然観察会の規約が承認されました。これは市民や行政などと協力して活動する場合には名古屋自然観察会という名称を使っているためにそれを明文化したものです。また、平成18年度の役員は、昨年改正され今年は2年目に当たるということで留任ということになりました。

今年度はポスト愛知万博の最初の年です。単なるお祭りに終わらせるのではなく、ここで得られた様々な経験を何らかの形で活動へ生かすのが会場建設で失われた生き物に対する責任だと考えています。

(名古屋支部長 滝田久憲)

尾張自然観察会(尾張支部)総会報告

日時：平成18年1月9日(成人の日)

場所：中電東桜会館

参加人数：25名(内、新人5名)

初めての総会参加で、何もかもが初体験だったが、第一印象は「尾張自然観察会」にはこんなにたくさんのお仲間がいるんだと感じました。

会の内容は、17年度の事業報告・決算報告・観察会実態調査報告、18年度の役員選出、そして18年度の事業計画・予算案の決定。又、「総会への提案」を事前に出してもらっており、その点について時間がある限り話し合いを行いました。

「尾張自然観察会」には新しくできる“木曽川下流自然観察会”を含め、10箇所も定例会があり、それぞれの報告も聞け、どこの会で誰が中心にやってみえ、数値報告から現在の状況もわかるので、全体の状況や課題点も知る事ができました。

今回新人の方から、「愛知県指導員の講習会の後、各支部への入会の仕方がどうすればいいのか、まったくわからなかった」との貴重なご意見を頂き、今後の指導員講習会時において、窓口を設け各支部の募集活動を連動したほうが良いと感じました。(わたしは森林公園自然観察会に行っていたので、そこで聞く事ができたのだが、参加していない方ならばわからなかったということになります。)

意見を話し合う場においては、それぞれの意見がでて時間切れで検討課題となったものも4点ほどありました。しかし、こうして、お互い会って話し合うことは会の冒頭で山田会長がおっしゃったように、お互いのことを知ることができるので、大切なことだなあと感じました。

又、今回の総会では連絡協議会の理事の公募が行われたことと、総会に参加しなければもらえない貴重な資料があることを追記します。

最後に、今年事務局を担当させて頂く事になりましたが、新人で何かとご迷惑をお掛けする事もあるかと思ひます。皆さまのお力を貸して頂きますようよろしくお願いいたします。

以上

(尾張自然観察会事務局 辻 愛子)

意見交流会「フェノロジー」報告

尾張支部 山田博一

日時：1月29日（日）午後1時半

場所：名古屋市公会堂第4会議室

フェノロジー（生物季節学）について、「生物暦」のデータをアクセスにまとめてもらっている斎竹さんとメーリングリストに「生物暦」を多く投稿していただいている牧野さんに発表していただきました。

斎竹さんが紹介した生物季節観測とは、生物の種を決めて、植物だったら開花・発芽・落葉など、動物だったら初鳴き・初見などの経年変化を比較するものです。2002年に自然観察MLが発足して、季節にふさわしい生物情報の交換ということで生物暦のデータ募集が行われ、2005年で合計901件に達しており、指導員の間に関心を持たれています。

1. 生物活動の経年的な変化（長期にわたる観測がさらに必要）

- ①ソメイヨシノの開花が早まっている。・・・温暖化が原因か？ 開花前線は南から北へ移動するが、都市部が早く開花するのはヒートアイランドの影響か？
- ②ツグミの飛来が遅い。・・・餌となる木の実の量か？繁殖地の環境変化か？
- ③名古屋でシオカラトンボやキアゲハが観測できない。・・・都市化による環境変化か？

2. 経年的・地域的な変化

- ①クマゼミの東進とミンミンゼミの減少。・・・地球温暖化？
- ②アオマツムシの北上。・・・外来種の分布拡大？

しかし、植物の開花時期の変動の原因を、地球温暖化による気温や降水量の変動だけにせず、積算気温で分析する方法やバーナリゼーション（春化处理）、短日植物の光中断が原因でないかという意見もありました。

鳥については、「大激減」「異常気象？」「異変」というセンセーショナルな言葉を、マスコ

ミは使いたがりますが、「肌で自然に触れている我々指導員は、記録を取ることによって、もっと、科学的に実証できないか？」という冷静な対応も求められました。

牧野さんは、初めは、意欲も手伝って対象生物の数が多いが、育児などの日常生活に追われ、対象生物の数も減って、なかなか緻密な記録は取れなかった。しかし、それでも記録を取ることで、その年の傾向はわかるので、対象生物を欲張りすぎず、続けて観察してゆくことが大切だという貴重な意見を述べられました。

やすらぎの森自然観察会にいつも参加している高校生から、草原の減少からオオウラギンヒョウモン・ヒョウモンモドキ・オオルリシジミが大幅に減少し、地球温暖化の影響から、ツマグロヒョウモン・ナガサキアゲハ・クロノマチョウが増加しているという報告がありました。

今回は、会員だけでなく、高校1年生から活発な意見をもらい、今までとは違った、フレッシュな雰囲気の意見交流会となりました。

生物季節情報は会の財産なので、生物暦の取組や観察会での開花情報の記録をしっかりと取り、データベース化して、会員で互いに情報を共有して、今後も活用してゆきたいと思います。



（当日のようす）

研究会「学校における環境教育」

— 自然を主として —

佐藤 国彦

平成 17 年 7 月 18 日および 9 月 23 日の 2 回、「学校における環境教育」というテーマで研究会を行いました。学校の総合学習などの外部講師として、我々指導員に依頼された場合にどのような態度、内容で臨めばよいかを整理したいことと、学校内部で環境教育をどのように扱ったらよいかというねらいでした。当日は、榊原正躬・滝崎吉伸・滝田久憲・中西正・堀田守の各氏に意見や活動を発表いただき、出席者で意見交換を行いました。ここに当日の意見等を基に、独断で一つの形にまとめてみました。従って、これは報告というより問題提起として、さらに皆様の御意見をいただければ幸いです。

1 問題点と対応

(1) 主催者(教師)に明確な目的意識がない

学校で行われる環境教育は、教科の中のものや総合学習や課外活動などに大別できる。教科の中で行われる場合は、教師もそれなりに対応しているであろうが、理科や社会などの科目に分散されてしまうこと、環境教育という教員資格がないことなどにより、体系づけた環境教育とはならないのが難点である。これを補うものとして課外活動などがあるが、これも学校の姿勢や教師の関心により実施状況はまちまちであろうし、対象が一部の生徒に限られ易い。また、我々には学校での環境教育にもっと力を入れるべきという思いがあるが、学校にとっては環境教育は福祉教育、人権教育、安全教育など様々な教育分野の一つに過ぎないと言えるだろう。

これらのことから、環境教育のために学校が教育の枠組を基本的に変えることは期待できないと思われるので、我々としては、行政などに働きかけて学校がエコクラブなどに加入したり、教員研修の場を設けたりして学校が環境教育に関わる機会を増やすことと、学校から依頼があったら我々が適格に環境教育を行うことであろう。学校の環境教育意識を問題にする以前に、我々が環境教育をしてあげようという気構えと能力、体制を作ることではないだろうか。将

来学校教育への外部講師導入が増えることも予想されるので、機会は増えるかもしれない。

(2) 総合学習などで環境教育に使える時間が少ない

学校教育に求められていることは多種多様であり、環境教育への時間が限られることはある程度やむを得ないかもしれない。学校の環境教育に使う時間の増加は前述のように別に対策を講ずるとして、環境教育を依頼された立場では、与えられた時間の中で対応せざるを得ないだろう。与えられた時間を努めて効果的に利用することを考えたい。

また、教師にとっても思うように環境教育を行う時間がないことも熱心な先生にとって問題であろう。しかし、これも機会をなるべくつかまえていくしかないと思われる。花壇作りの中で生物の営みにふれるとか、学校放送で地域の環境問題にふれるなどである。特に、近くの海岸にウミガメの産卵があるなど、地域にある環境問題などを学校全体で取り上げてみることであれば、生徒にとっても教師にとっても良い環境教育に結び付けられるであろう。それは地域における学校の位置付けを高めることにもなる。また、親子観察会など父兄を取り込んだ行事を行うことにより、その理解が得られ易くなる。

(3) 環境教育を行う場所がない

特定のフィールドを持つことが望ましく、良い自然があれば生徒の関心も増すが、後述するように学校の近隣あるいは学校の中でも工夫すれば環境教育は実施できるものであるし、身の回りを見つめることも大切である。なお、学校にビオトープなどを作らないと環境教育ができないように思うのはむしろ問題で、管理に手間を取る施設は後々負担になることもある。

(4) 生徒への対応が均一にできない(一般性の確保)

自然に関する知識の豊富な教師ならば、教科の中でも課外活動でも適切な指導ができるであろうが、担任する生徒の範囲、課外活動の性格、他の教師の対応などから全校生徒に同じ教育ができないことも多い。良い授業を全ての生徒に与えるのは教育の基本的な姿勢であるが、そのためには環境問題の一部でも学校行事に広げるなどの努力が必要であろう。そのとき我々指導員にも何か協力できることはないか、教師とともに検討することが大切な気がする。しかし、たとえ一部の生徒であっても機会を作って環境教育を進めることは有意義であり、自信をもってできることから実施していくべきであろう。

(5) 環境教育というとゴミ集めになる

ゴミ問題も重要な環境問題であるが、そうなるのは環境教育の実施方法が分からないため、我々指導員が適切な指導ができるという能力と体制を持って、指導を受けられるようにしたいものである。また、生物の名前を知らなくても指導できるようにマニュアルを作って、教師等の研修を行うことも必要であろう。

2 ねらい

(1) 基本的な方向

自然保護教育の3つの柱である「①親しむ、②知る、③守る」が環境教育でもそのまま当てはまる。大雑把に言えば、地域の

環境(自然、文化)の良さを見つけてそれを楽しむ、環境の成り立ち、人との関わりなどを知る、環境を守る方法を考えるという手順となろうか。時間がなくてこの一部だけを指導することも少なくないが、常に全体を意識していることは大切である。なお、環境教育では、環境の中心には人間があり、環境保護が人間の生き方につながるものであることを念頭に置いておきたい。

(2) 体験の重視

情報社会であり、知識を得るのは容易になっている。しかし、それでは身についた知恵や思考は出てこないため、体験を重視したい。重要なのは生徒が観察、体験することで知識の伝授ではない。まずは自然と触れ合い、身体で感じる、疑問を持つことで、さらには地元の人と話し、その経験を聞き質問するなどが大切である。

(3) 自主性を重んじる

観察結果から得る環境認識、保護への考え方は、生徒本人のものでなければならぬ。そのためには、自主的に観察するように仕向けることが大切である。また、まとまった時間がある場合は、観察のテーマ、方法などは、努めて生徒に計画させたい。自主的に行うとにより、企画力・判断力などがつき、知的喜びも得られると思われる。なお、初めから生徒の任意で進めるのではなく、状況により生徒の関心を引き出す、その日のねらいに導くための導入が必要でもある。

(4) 学校ぐるみの活動を

グループやクラスなどの学習とともに、学校全体で地域の特徴を生かしたテーマを持って展開するのも、問題を共有し、発展させる意味で効果があると思われる。

3 実施場所

(1) 特定のフィールドを持つ

長期的、継続的な実施を考えるなら、適当なフィールドを例えば学校林のような形で設定するのが望ましい。公的な施設を利

用したり、指導員の活動している場所で受け入れることも可能である。地元の協力を得て、多少の採取などができるとさらに良い。なお、場所の設定に際しては、実施内容を十分つめて置く必要がある。

(2) 近隣の場所で

学校に隣接した小公園や空き地、小河川など使うことも考えられる。環境教育では何が必要というのではなく、有るものを利用することで実施できる。

(3) 学校の中で

学校の中でもある程度のことはできる。できれば学校の目立たない一角に草刈りを抑制した場所や何種類かの低木を植えて観察地とする方法も考えられる。近年、ビオトープとして池作りなどが行われたが、管理の必要がある施設は、利用内容や体制を十分検討してからでないと無駄になりやすい。

4 実施方法

(1) 総合的に環境教育

年に数回かけて体系的に環境教育を実施する場合の例

a 稲作体験の中で

単なる作業体験では環境教育とは言えないので、作業とともに如何に自然を見ていくか、稲作と自然の関わりを見るかが大切である。初めに、オリエンテーションで田づくりの意義を説明しながら、テーマを持って自然に接するように誘導する。

内容としては、地域の稲作文化へのアプローチ(虫送り行事等)田の生き物調べ、田の周辺の環境との関係を考える(農業の意味、肥料の意味)、自然と人との関係(自然との付き合い方、マナー)などを行うようにする。そして、稲作体験を通じて、農地が持っている多面的機能、身近な生物との関わりが、如何に大切かを気付かせたい。

b 森の観察

初めに森を散歩し、森とはどんなものか、どんな生物がいるかなどを体験する。

そして、それぞれにテーマを持ってその後の観察を始め、観察後はその結果をグループ内でまとめ、全体で発表する。最後に指導者が森の環境の成り立ちについて整理する。ポイントとしては、森の構造、生物のつながり、森の機能、人との関わりなどがある。

(2) 短期的な環境教育

1～2回の行事として行う場合は、その実施場所によって内容が決まってくる。

a 近隣の森・河川など

主として通常の自然観察会のように行えば良いが、環境教育とする以上多少の工夫は加える必要があろう。短時間の中で効果をあげるには、初めにテーマを絞って(森の中にはどんな生き物がいるか、森の内容はどこでも同じか等)生徒の関心を誘導する。最後にまとめの時間を十分とって、生徒それぞれの見方、考え方の違いを重視しながら、テーマの主旨を理解させるようにする(多くの生き物がいてこそ生きた森である、立地条件によって森の中身が変わってくる等)。

b 校内、都市小公園など

自然の乏しい場所なので、観察ポイントを大切に扱うようにして、観察のねらいや方法を検討して作戦を立てる。まとめでは、幾つかの質問を組み立てて、例えば見られた昆虫の食物連鎖を考えたり、自然の森と公園の森の違いに気付かせたりして、街中の生態系や人との関わりを考えさせるような方法がある。こうした場所では、ゲームを取り入れるのも一つの方法であるが、観察の趣旨を忘れないように留意する必要がある。

先号に引き続き、新しく愛知県自然観察指導員連絡協議会に加入されました方々の自己紹介を掲載させていただきます。なお、誌面の都合上お寄せいただいた紹介文の一部は、5月号に掲載させていただきます。

加藤 修司（西三河支部）碧南市

関心のある自然の分野：昆虫、植物

現在活動していること：週末に「西尾いきものふれあいの里」で昆虫や植物などの写真を撮りながら自然について勉強中です。

その他：自然観察指導員としての知識はまだほとんどありません。皆さんよろしく願います。

宇都宮 真輔（尾張支部）津島市

愛知県津島市在住の宇都宮真輔（うつのみやしんじ）と申します。尾張支部に所属しています。植物や昆虫などについては全くの素人ですので、これから勉強していきたいと思っています。よろしくお願いします。

私の住む津島市では、現在、市民参加で環境基本計画を策定しています（平成18年3月完成予定です）。計画を策定するにあたり、最初に市民から環境に関する意見を募ったところ、気軽に散策や野鳥観察などの自然体験ができるまちであってほしいという意見が多く、多くの市民から寄せられました。現在、尾張支部には津島市近辺での定例観察会はありませんが、いろいろな観察会に参加して勉強し、いつか地元で観察会を開きたいと思っています。

堀田 時子（名古屋支部）名古屋市名東区

名古屋の東玄関、東名高速道路「名古屋インター」横にある猪高緑地、都市近郊でありながら、今も自然そのままの里山が残されていることに感動しています。

私にとっての休日は、森や里山で時を過ごすことで、草木やそれに連鎖する命を言葉として、自然観察や自然環境の保護活動を通して聴こえてきたならば、どんなに素晴らしい事でしょう。「休」の字のごとく、人が木に寄り添う日として、このかけがえのない自然を後世に残すため少しでも役に立てればよいと考えています。この様な気持ちに、させてくれたのも主人のお陰と感謝しております。

2005年10月に6年ぶりに開催された山口県（国立山口徳地少年自然の家）で指導員講習を受講。遠くは沖縄・鹿児島からも参加され、いろんな地区の自然情報も聞かれ、たいへん楽しい講習会でした。

名古屋支部に入会登録しましたのでよろしくお願い致します。

木村 眞一郎（尾張支部）犬山市

現在犬山市エコアップリーダーで「ふれあいの森」グループで森林整備作業をしています。犬山市内の巨樹調査、野鳥観察、炭焼き、手作り作品、調査等にも関わっています。自然観察会への参加が出来ていませんが今後可児やすらぎの森、善師野へは極力参加していく所存ですのでよろしくお願い致します。

白石 雅彦 (尾張支部) 小牧市 msyhnms@tj9.so-net.ne.jp

現在の参加団体・活動：①犬山エコアップ、ふれあいの森グループ ②こまき環境市民会議（エコサミットこまき） ③小牧兒の森（ちごのもり）グループ ④こまき市民活動ネットワーク 以上4団体で活動しています。

いずれも環境に関する活動ですが、①③は森林保護再生活動、こども達の体験活動、②④はわたしたちが提案したこまき環境基本計画に沿っての活動、各市民活動団体の交流、ネットワークです。

私の場合、森を除伐したときに、山が森が喜ぶ姿を見ることが、森と対話することが楽しみで癒されます。環境活動のすべては森から始まるといっても良い位に考えています。

今後は日程の許す限り自然観察会にも出席し、指導員としての勉強をしたいと思っていますので、突然参加させていただくかも知れませんが、御指導よろしくお願いします。

坂井田 良男 (名古屋支部) 名古屋市

特に鈴鹿の山に咲く花に関心を持っていますが、一般的には山の花、高山植物を見ることが好きです。他には野鳥の観察です。

草花の名前を覚えるのに偏重しないよう広い視野で自然を眺めたいと思います。

大嶋 洋平 (知多支部) 大府市

大府市在住の大嶋と申します。

いきなりの余談ですが講習会終了後、駄洒落好きのS・O講師の本を部屋に置いていところ、母曰く「S君の本、何処で見つけたの?」「君???」母曰く「中学、高校、と同じクラスでしたよ。」身内にS・O講師の同級生が居たとは!

やはり、元来、駄洒落好きだったようで・・・

私は?と、言えば毎週、相も変わらずの「山」、「鳥」生活でして・・・

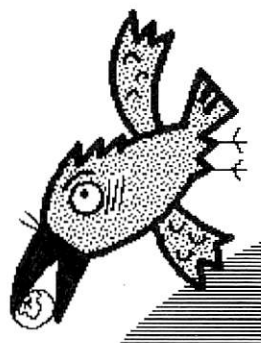
「鳥」は?と問われれば、元来、自分の観察池周辺では地域の皆様から話し掛けられる性質でして、皆様それとなく顔馴染み?

しばらく以前の事です、年配の女性からの質問?「冬になると、しょぼくれ出すあのサギは何て言うの?」「ああ、アオサギですよ。」彼女が立ち去って、思わず、「お前、しょぼくれサギだってよ!」彼は、と言え、ば、「・・・・。」困惑の状態で、さらにしょぼくれ出す!地域の皆様と自然の話題も大いに楽し!

「山」は?と問われれば、12月中旬からの寒波で、谷筋もしっかり冠雪状態!胸まで雪に浸かり、鞍部から斜面を雪にまみれながら転げ落ちるこの浮遊感!「ん~!爽快!止められませんな!」

「山」に出逢い、「鳥」に出逢い、「人」に出逢い、これまた、大いに楽し!

結局、講習後何か変わったの?今の所、特に・・・でして、お恥ずかしいかぎりです。そんな、毎週を過ごしております。



自然観察会

～ スタッフになろう！ & 伝え方のヒント ～

名古屋支部 近藤記巳子

■スタッフになろう

～質問が 怖い！？～

「もし、何か質問されたらどうしよう・・・」

観察会のスタッフになると、「質問」が心配という人が多いようです。自然観察指導員は何でも知っている、何でも答えてもらえると思われる節があります。私自身も観察会をスタートした当初は、大変心配でした。どんなときに、どんな内容のことを聞かれるのか、全く不明なのですから・・・。

今回は、「もし、質問をされたら・・・」という場合の対応の仕方を考えてみましょう。

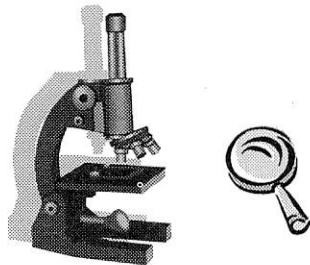
たとえば、植物の名前を参加者から尋ねられたとします。仮に自分が知っていても、まず、参加者に聞きましょう。

「どなたか知っている人は？」と。大抵何人かの参加者から、「◇◇」「いや、△△だ」という声が聞こえてきます。さらに「なぜそう思うのか」とか、「名前の他に知っていることがあったら、教えてください」と問いかけます。すると名前の由来や、人との係わりなどまで話される参加者もいます。こういうときの参加者の方、とってもいきいきした表情で話されるのが、印象的です。観察会は、インプットする場であると同時に、アウトプットする場です。そのことで観察会が一層盛り上がりたりするわけです。もし、参加者のみなさんが知らないのであれば、「その件については、スタッフの〇〇指導員が詳しいので、一緒に聞いてみましょう」と、得意分野とするスタッフにふればいいですね。それも不可能ならば、「その件は、調べてお知らせします」と伝えます。この一言が素直に言えるようになれば、「指導員として一人前！」です。

以上の対応ができればもう大丈夫。「質問は怖くない！」不安解消、ですね。

さあ、気候も良くなりました。近くの観察会のリーダーに「スタッフになります」と、電話をかけましょう！

※今回の「協議会ニュース」には、会員名簿が同封されていますので、是非活用ください。



■伝え方のヒント

～ファール・ミニ（実体顕微鏡）の活用～

木々の芽がふっくら丸みを帯び、いよいよ春の足音が間近に聞こえる頃です。なかでもニワトコは比較的早く芽吹き、そのユニークな姿には観察会の参加者から歓声がわきます。

「まるでブロッコリーみたい！」

「ほんと、瑞々しくておいしそうだな～」

にぎやかな会話がひとしきり交わされた後は、ソメイヨシノやヤマザクラの観察です。といっても「一輪も開花していないサクラを、なぜ？」という表情の参加者もいます。

「芽が、だいぶんふくらんできたなあ」

「だけど、まだまだ寒いといってるよ～」

「あれ、尖った細い芽と丸い芽がある！」

「ほんとだ～、形がちがう！どうして？」

このあたりで、形の違う芽をそれぞれ採取し、カッターで切断してもらいましょう。さていよいよ実体顕微鏡ファール・ミニの登場。レンズを通してみれば、そこはまさに驚異の世界！一方は、鮮やかな若緑色が幾重にも重なり、もう片方は、若緑の色の重なりの中に黄色の粒がぎっしり詰まっているのが観察できます。「葉芽」と「花芽」であることが誰にも理解できるでしょう。ここまで参加者を退屈させることなく引っ張ってくれば、観察会は大成功！

伝え方は、言葉だけではありませんね。今回のように、実体顕微鏡ファール・ミニやルーペなどの道具を活用することで、自然のおもしろさや不思議を、より一層関心を高めて伝える方法もあります。是非、試してみてください。

富具崎海岸・富具神社

知多支部 永田 孝

所在地 知多郡美浜町野間



野間灯台

恋人達が恋の成就を願って、南京錠をかけに訪れることで有名になった野間灯台。そのすぐ西の山上には富具神社、その南の海岸線には富具崎海岸があります。

ここ美浜町南部から南知多町にかけての一带は、地質が知多半島北部のような土砂ではなく、師崎層という新生代第三紀中新世前半に形成された頁岩や砂岩などの堆積岩からなっているために、風化に耐えた山の崖が海岸線の間近まで迫り、海岸はそれらの岩盤が露出した磯を形成しています。

◆富具崎海岸

磯の岩盤は潮に洗われて、いくつもの潮だまりを形成しており、磯の生物を観察するには恰好の場所となっています。そして山からの栄養に富んだ水の流入は、周辺海域での生物の生活に好影響を与えるため、ここは海の生き物たちの宝庫となっています。

知多支部では、富具崎海岸の磯で毎年夏頃に自然観察会を行っておりますが、その観察会で例年よく見られる生物は次のようなものです。

◎岩の表面に見られるもの

ヒザラガイ、ウノアシ、タマキビ、ムラサキイガイ、イボニシ、レイシ、ヨロイイソギンチャク、ミドリイソギンチャク、カメノテ、イワフジツボなど

◎潮だまり付近で見られるもの

ハオコゼ、ナベカ、マハゼ、ヒライソガニ、ケフサイソガニ、ヒメヨコバサミ、ムラサキウニ、マナマコ、クモヒトデ、ヒトデ、ダイダイイソカイメン、クロイソカイメン、エボヤ、シロボヤ、マボヤ、アナアオサ、タンバノリ、ミルなど



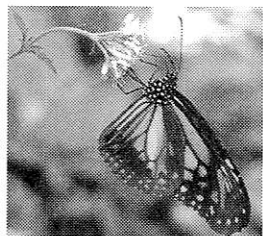
観察会の様子

また、小規模ながらも砂浜も存在し、その上部にはハマヒルガオ、ハマダイコン、ハマエンドウ、コウボウシバなどの海浜植物が生えています。

さらに伊勢湾に面したこの場所は、黒潮の影響を受ける場合もあり、夏の特に台風の通過した後などには、ギンカクラゲやルリガイの他、モモタマナの種子など、黒潮に乗ってやって来たと考えられるような生物が漂着したり、熱帯魚のオヤビッチャ、チョウハン、スズメダイの仲間も姿を見せたりすることがあります。

◆富具神社

一方、山上の富具神社周辺は主としてウバメガシやトベラを中心とした暖帯性の林で、フウトウカズラやミズバイに加えて、ホルトノキやタイミンタチバナのような南方系の植物も見ることができます。またここは、“渡り”をする生き物たちの中継地として有名で、毎年秋になるとサシバナなどのタカ類やアサギマダラなどを見ることができます。



アサギマダラ

理事会報告

◆ 1/7 (土) 14:00～17:00

於 名古屋ボランティア・NPOセンター
出席者：鬼頭弘 松尾初 近藤記巳子 齋竹善行
佐藤国彦 堀田守 滝田久憲 村上和彦
降幡光宏 三田孝
議長 鬼頭弘 記録 近藤記巳子
議題

1. 18年度の事業計画及び予算計画
 - ①HPの作成及び立ち上げ
 - ②他団体との交流（東海・関西地区へ声かけを検討）
 - ③「市民参加の海岸植物群落調査研修会」（NCS-J主催）
 - ④ステップアップ研修（新指導員を含め多数参加の呼びかけ）
 - ⑤総会の日に講演会を設定
会員からの希望が出ているゲストを含め、複数の候補者から交渉
 - ⑥スタンプラリー（無理をしない範囲で可能なら検討）
 - ⑦ツアー（事業計画に余裕があるならば検討）
2. 総会運営
午前 10:30～12:00：主として新指導員対象に「観察会 Q&A」開催
午後 1:00～：総会・講演会他
3. 役員改選について（2年の任期終了のため）
次回理事会で、次年度の理事を決める。
4. 保険の協議会負担 10 円分について、協議会会計からの持ち出しがないよう見直しを保険担当者に検討依頼。（@60 にすれば持ち出し 0 で可能か？）

◆ 2/18(土) 13:30～16:30

名古屋市公会堂 第 4 研修室
出席者：鬼頭弘 松尾初 石田晴子 大谷敏和
近藤記巳子 齋竹善行 佐藤国彦 山田博一 滝田久憲 降幡光宏 三田孝 村上和彦 山下真志
議長：鬼頭弘 記録：鬼頭弘 近藤記巳子
0. 総会時の講演会は植原彰氏の了解を得た旨を報告
◆議題

1. 18 年度の事業計画及び予算計画
 - ①前回の事業計画の詰め
 - ・前回の続きを検討
 - ・冊子「海上の森の四季」調査及び作成（愛知県からの受託事業）
 - ・保険については、18 年度はこれまで同様に保険料 40 円に据え置く。（すでに一部支部総会を終え、変更となれば対応が困難なため）また、19 年度については、会員に総会時に意思・賛否を問う。

②17 年度会計報告および 18 年度予算案の検討
2. 総会運営

10:00 に全理事、会場（あいち NPO 交流プラザ）に集合し、総会会場設定を行う。
受付担当：鬼頭弘 進行：
議長：松尾初 書記：山下真志

◆ 2/25 (土) 1:30～16:30

於 名古屋市公会堂 第 5 研修室
鬼頭弘 松尾初 石田晴子 大谷敏和
近藤記巳子 齋竹善行 佐藤国彦
山田博一 村上和彦 降幡光宏
三田孝 山下真志 南川陸夫
脇田孝仁
議長 鬼頭弘 記録 鬼頭弘 近藤記巳子

1. 18 年度事業計画
前回の続きの詳細を検討及び承認
2. 総会運営について
当日午前 10 時に会場に集合その他、タイムスケジュールの詳細確認
3. 役員についての検討及び承認
会長：松尾初
副会長：・降幡光宏
監事：山下真志、岩崎光明
編集：永田孝（齋竹善行）
調査：松尾初（吉田彰）
他、複数の会員に理事の依頼
3. その他
・来年度は理事会日程の予定を決めて開催することを承認



事務局からのお知らせ

■総会に参加を！

～ゲスト 植原彰氏に決定！～

総会が 3 月 21 日に開催されます。昨秋に新たに加入の会員のみなさん、是非参加ください。協議会運営の理解が深まります。また、今後運営に積極的に係わっていただきたいと思います。尚当日の午前「観察会 Q&A」には、日頃の疑問・質問をどうぞ！ 午後には植原彰氏の講演会を予定していますので、是非、お楽しみに！

■連絡先などの変更は早めに

転居・婚姻などによる住所・氏名などの変更は速やかに事務局まで連絡を。（以上 近藤）

